

元気企業
訪問カルモ鋳工
株式会社

アルミ鋳造で 自動車、鉄道に強み 商談会を機に航空機へ参入 成長の新たな柱に

一貫生産で短納期を実現

カルモ鋳工株式会社は新幹線N700系のブレーキ制御弁や自動車のエンジン部品として使われるシリンダーヘッドをはじめとする輸送機器の重要保安部品を、アルミ鋳造という加工法を使って製造しています。アルミ鋳造の工程はまず製造する部品のもととなる「木型」作りから始まり、そこに高温で溶かしたアルミを流し込んで型を作る「鋳物」、できあがった鋳物の後処理を行って完成品に仕上げる「機械加工」、そして「検査」を経て納品します。

アルミの鋳造は鉄のそれに比べ熱による収縮が大きいので、冷却時に生じるピンホールと呼ばれる気泡を生じさせないための工夫が随所に凝らされています。また、CAD/CAMシステムをいち早く導入し、技術者を養成しながら設計図面のデジタル化に取り組んできました。

特に同社が主力としてきた自動車部品の試作においては、設計図を受け取ってから納品するまでのリードタイムをいかに短縮できるかが至上命題となっています。そこで10年前に就任した高橋直哉社長がまず取り組んだのが、それまで外部に委託していた「木型」と「機械加工」も手掛け、全ての工程を自

社内で完結させることでした。その結果、シリンダーヘッドの場合3カ月のリードタイムを1カ月まで短縮することができたといいます。「短納期、高品質のカルモ」の評判は広がり、多くの自動車メーカーに採用されるようになりました。

しかし、2008年のリーマン・ショックが自動車業界を直撃。全売り上げのうち自動車業界向けが4割近くを占めていた同社は、売上高が8億円から4億8千万円まで落ち込んでしまいます。リスク分散の必要性を痛感した高橋社長は「1業界3割以下に、1社当たり2割以下にまでシェアを抑える」というルールをつくることにしました。

航空機部品メーカーとの出会い

そのような考えの下、新規取引先の開拓を進めていたタイミングで、ひょうご産業活性化センターが主催する取引商談会に参加しました。そこで航空機部品製造を手掛ける県内の企業と出会い、航空機産業に参入するには3つの条件が必要だと聞かされました。「CAD/CAM技術を持っていること」「5軸加工の工作機械

を保有し優れた加工技術を持っていること」「航空機部品生産に必要な国際認証を取得していること」。前2つの条件は満たしていたため、早速、熱交換器の部品の製造を受注しました。

「中小企業は優れた技術を持っていたとしても営業に資源を掛けられず、どこにニーズがあるのかが分かりません。ニーズが見つかったとしても実際に取引が始まるまでには長い時間を要します。その点、取引商談会は発注企業が何を求めているかが分かり、また活性化センターが主催しているという安心感から話がすぐにまとまりやすい」と、参加して感じたメリットについて語ります。

15年3月には国際認証も取得し、航空機部品の仕事がさらに広がります。その後、15年度にスタートした活



CAD/CAMの導入にもいち早く取り組んできた

性化センターの「ものづくり中小企業のオンリーワン企業創出支援事業」による航空機分野の「特別商談会」にも参加し、そこでも新たな取引につなが

ったそうです。

現在の売上高は10億円に迫り、そのうち、航空機部品のシェアは5%にまで上がっています。「当面は2割までも

っていくことが目標」と高橋社長。「いいものづくりのためにはいい組織、いい人づくりが基本」と人材育成にも力を入れ、さらなる飛躍を目指しています。

会社概要
カルモ精工株式会社

所在地 神戸市西区高塚台3-1-45
代表取締役 高橋直哉
事業内容 アルミ加工、アルミ鋳造、銅合金鋳造

TEL 078-991-1414
URL <http://www.karumo.net/>

支援メニュー講座

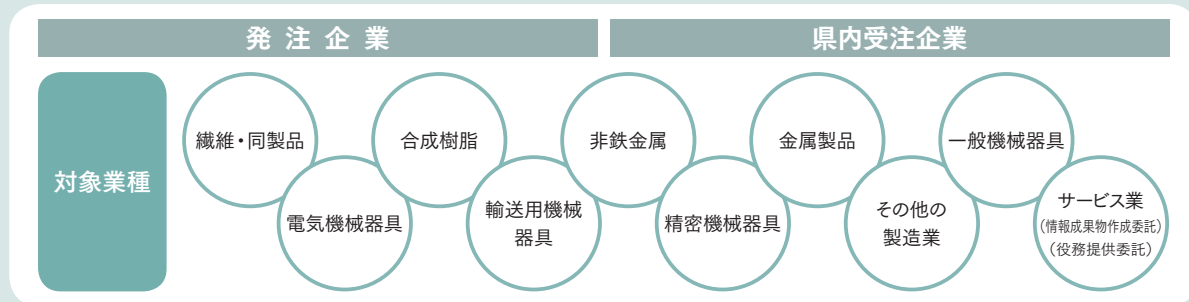
取引商談会

取引商談会で県内ものづくり中小企業の販路拡大を支援します。

制度概要

当センターで実施している取引商談会は、県内ものづくり中小企業（県内受注企業）が県内外のメーカー等発注企業（発注企業）に製品および加工技術を紹介し、中小企業の広域的な受注機会の拡大と新規取引先の開拓の機会を提供しています。

2016年度は、9月に神戸・大阪・但馬で、11月は姫路、12月は神戸、3月は京都で開催します。



※取引商談会への参加は、登録制となっています

[ひょうご産業活性化センター 取引振興登録](#)

[検索](#)

問い合わせは [ひょうご産業活性化センター取引振興課](#) TEL 078-230-8328